

第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成31年3月27日（水）10:00～11:00
場所 鶴瀬コミュニティセンター第3集会室
出席者 ○市民懇談会参加者

本間	関根	新井	中江	田屋	瀬戸
○	○	欠	欠	○	○
上川	永井	搦木	小栗	猪俣	大下
○	欠	欠	○	○	○

○事務局

【生涯学習課】 松田副課長、加治主査

【地域文化振興課】 中嶋課長、佐藤主査

◇議 事

事務局より、計画の評価方法について資料を用いて説明。評価をする上での指標が明確でないことから、基本施策の達成度を評価した後、基本目標および施策の柱について、総合的な評価を行う二段階形式で進めていく予定。

参加者) 市の中でそれぞれの課が様々な事業や計画を進めているが、生涯学習について指標が明確でない理由は何か。計画策定時など、過去のいきさつがあるのか。

事務局) 指標を示しづらい分野であることがいちばんの理由である。例えば、事業を開催し、参加者が増えたからといって、一概に良い事業という判断にはならない。満足度は個々に異なることから、判断が難しいと感じている。

参加者) 学習の評価も難しい。個人の学習レベルから、団体や組織としての学習レベルまで、多様である。

参加者) 評価は、質の評価、数の評価で計れる部分があり、数で評価できるものは数で評価して良いと考える。質・量で評価することで、計画の達成度が図れるのではないか。

事務局) 質・量で評価できるよう検討する。

参加者) 計画が市民に認知されていない。また、個々に取り組んでいる事業が、計画の目標達成に立ち返るやり方になっていないのではないか。

参加者) 市が開催する事業が、市のどの計画に基づくものなのか、理解して事業に携わっている市民は少ないのではないかと感じる。また、行政が市民に趣旨を伝えられていない部分もあると思われる。その事業の参加者と評価者が、同じ土俵にいないと、計画の達成度

を図るのは難しい。例えば、ホームページなどで、事業と計画の関連付けがなされるようなアイコンがあると、とてもわかりやすいのではないか。

参加者) 指定管理だと、評価項目に「よい・わるい」があり、わかりやすい。生涯学習の分野は、難しいというのは理解できる。

参加者) 参加者が3人という少数でも、とても意味のある内容であれば、数で計ることは馴染まない事業もある。

参加者) これからの10年を考えた時に、この計画の評価や改訂は富士見市に住んでいて、今後どのように在りたいのかを考える良い機会であり、それが計画の指標に繋がってくるのではないか。

参加者) 基本目標は、大変重要であり、これから何をするのかという計画において、未来への想いがある。具体的な事業を注視してしまうが、基本目標はその事業を推進する意味づけになるため、もう少し根幹を考える必要があると感じる。

参加者) 「達成度を図る」としても、“何をもって”達成とするのかは明確にしておいたほうがよい。

参加者) 事業を知らないと評価できない。市民懇談会委員が事業に参加し評価することができる仕組みを作っていく必要があるのではないか。

参加者) 計画の本編は非常に細かく市民には難しく分かりづらい。例えば概要版ぐらいの内容の方が市民にとって分かりやすいのではないか。概要版サイズを本編として、現在の本編は職員の手持ち用の計画ということで考えることはできないのか。

参加者) 時代の変わり方が大きい。今から10年前に、職業としてユーチューバーやeスポーツが、認知されるとは誰も思っていなかった。そう考えると、先の10年後も全く予測ができないし、スピーディーな対応が求められる。だからこそ、基本目標は大事になってくる。

事務局より、基本施策の抽出を今後の課題とし、推進市民懇談会で提示できる方向で検討する旨伝え、終了。